

## クウェート政府奨学金

### 2007年—2008年度留学生

#### 先生になるためには

上智大学法学部 池島 麻三子

クウェートに来て3ヶ月が経つ。クウェートも冬を迎え、鬼のように暑かった夏が恋しくなるほど、今はものすごく寒い。クウェートがこんなにも寒くなるとは思ってもみなかった私は両親に頼んで分厚いコートを日本から送ってもらった。

今私は寮の自分の部屋にいる。アラビア語でがんばって書いた一日の学習スケジュール、クウェート大学の新聞に載った自分の写真の切り抜き、「シュッディーハイレク！（勉強せよ！）」という言葉の手書きの張り紙、たくさんさんの授業プリント、単語帳…この3ヶ月で私は少しずつ少しずつ成長したと感じる。最近では同じ留学生同士の間でもアラビア語で会話をしてみたり、食堂で一緒になった学部生（湾岸諸国、東南アジアやアフリカからの留学生が多い）にがんばってアラビア語で話しかけてみたり、大学内や大学から寮に戻るバス車内で出会ったクウェート人の学生とアラビア語で話してみたり、少しずつではあるが日々自分の成長を感じている。ある授業では、自分達でテーマを決めクウェート人学生にアンケートをとり、レポートをまとめる（アラビア語で！）というなんとも挑戦的な課題が出されたのだが、私のグループは「クウェートにおける女性の権利」という課題に取り組み、苦戦しながらも見事に一等賞に輝いた。

しかし、私が学びたいことはアラビア語だけではないのだからこれだけで満足してはいけない。そもそも私がこの留学に応募したのは、将来教師になるという夢のためだから。将来自分が教師になる上で、教師である私が世界について何一つ 知らず、先入観や偏見を持って世界を見ていたら、未来を担う子供たちに教えられることは何一つないと思い、私はこの留学を決意した。クウェートで多くの異なる文化に触れ、カルチャーショックを受けて、世界を偏見なく見ることができる力を身につけたい。せつかくクウェートというめったに来ることの出来ない国にいるのだから、言葉の習得だけに満足せず、それを学ぶ課程で、それを通して、またそれを通さずとも、たくさんさんのことを学びたい。自分に限界をつくらず、吸収できることはできるだけ吸収して日本に帰りたい。その点で私はまだまだ努力が必要であるし、これは今後の課題である。

ところで、私が思うにクウェートは自分が勉強したいと思ったことを勉強しやすい環境であると思う。もちろん私の住む寮の門限が21:30であるように、クウェートは女性が外に出にくい環境ではある。だがその分人と人とのつながりが強く、コネクションを通して安易に自分がしたいことにたどり着ける気がする。例えば何か困ったこと

があった時でも、一度ある人に頼ってみると人づてに情報が回り、最終的に思いがけない助けが得られたりする。偶然出会って一度話した人でも、「何か困ったことがあったら連絡して」と親身になって私を助けようしてくれる。勉強したい気持ちさえあれば必ず誰かが手助けをしてくれる、そういう意味で、クウェートは勉強しやすい環境にあると思う。

私のクウェートでの留学生活もすでに残り7ヶ月あまりである。日々少しずつ成長し、しかしそれに満足せずにさらなる成長を求め、日々努力していきたい。そして日本に帰ってから胸を張って「私はクウェートで勉強してきました！」と言えるようになりたい。